

(件名) 奄美を戦場にしないために平和外交を国に求める陳情書

(陳情の趣旨)

鹿児島県議会においては、新型コロナウイルス発生以来、県民の生命と安全な暮らしを保障するあらゆる施策を提案し、また事業の遂行にご尽力されたことに敬意を表します。

さて、皆様もご承知のように島民の民意も確かめることなく、2019年3月に奄美大島内に陸上自衛隊奄美駐屯地と瀬戸内分屯地が開設され、それぞれ地对空ミサイル部隊、地对艦ミサイル部隊が配備されています。また、地中式大型弾薬庫が建設途中です。

駐屯地が開所して半年後の9月には、奄美駐屯地内でミサイルを防護する目的で、日米軍事訓練が行われ、島民は米兵の来島に驚きました。また、2020年7月にはミサイル発射準備訓練が奄美駐屯地内で行われています。その際、米軍は沖縄米軍基地より米軍専用輸送船「グアム」で、迎撃ミサイルPAK3を運び込んで、訓練に参加しています。

奄美で3度目になる日米軍事演習は昨年8月、ロシアによるウクライナ侵攻が継続中にもかかわらず、ウクライナ戦争で稼働中の米軍兵器・高機動ミサイルシステム、ハイマースを導入して、これまで以上に即応・実践的な軍事訓練を実施しています。3カ月後の11月には、奄美空港から陸路で瀬戸内分屯地にハイマースを運び入れ迎撃訓練が行われています。またこの訓練期間中に自衛隊施設のない徳之島でも初めての日米軍事演習が行われています。さらに今年3月には、徳之島・島内で二度目、OTHレーダー(象のオリ)施設のある喜界島では、初めての日米合同軍事演習「アイアン・フィスト(鉄の拳)23」がありました。パラシュート降下訓練を実施するために、着地点の畑のサトウキビを早刈りさせ、圃場に繋がる町道を封鎖して、送電を停止させる等の町民へ負担を強いて行われました。

このように、奄美群島内で頻りに日米軍事訓練が行われるのは、東アジアやインド太平洋地域における「米国の権益」を維持するためといわれています。そのためには中国の海洋進出等をおさえる必要があると考えられます。そこで、台湾有事まで想定した軍事作戦を立て「米軍と自衛隊」一体となった対処法と考えられています。日米軍事演習の強化拡大・実施は、奄美群島各島々を米国の為の戦争に駆り立てる行為だと捉える事が出来ます。

奄美群島民は、先の大戦後の8年間米軍の統治下であり、戦争の惨禍を知り尽くした過去を持っています。平和憲法を樹立した祖国に復帰を果し、今年で70周年を迎えようとしています。米国を守るために、奄美群島を再び「捨て石」にしてはなりません。

政府は、平和憲法の趣旨「国と国の争いは話し合いで解決する」を世界に広め、あらゆる国々との等距離外交に努め、粘り強く「平和外交抑止力」を高めていかなければなりません。

記

1 奄美を戦場にしないために、「平和外交」に努めることを国に求めること。